

会議録  
令和4年度 第3回総合教育会議

- 1 日 時 令和5年3月20日（月曜日）  
午後3時30分～午後5時
- 2 場 所 市役所本庁舎2階 市長公室
- 3 出席者 市長 星野 光弘  
教育長 山口 武士  
委員 宮 陽一  
委員 深井 美千代  
委員 横田 豊三郎  
委員 深野 はるみ
- 4 署名委員 委員 深井 美千代  
委員 横田 豊三郎
- 5 説明職員 教育部長 磯谷 雅之  
学校統括監 小林 正剛  
学校教育課長 石井 勝博  
教育相談室長 関崎 純也  
子ども未来応援  
センター所長 益子 俊之  
福祉政策課長 須藤 秀喜
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩  
政策企画課長 齊藤 博之  
政策企画課副課長 甲佐 隆志  
政策企画課主任 須堯 陸海
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 学校教育相談の充実について

### 【星野市長】

皆様こんにちは。令和4年度第3回総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

さて、本日の総合教育会議でございますが、「学校教育相談の充実について」を議題とさせていただきます。本議題につきましては、令和3年度第2回会議において本市の児童生徒の不登校などの現状や、その対応策について議論をさせていただいたところです。コロナ禍の影響もあり、不登校などの問題を抱える家庭や子どもが増えてきている実情がございます。

このことに対しましては、山口教育長をはじめとした教育委員会と市長部局が議論を重ねてまいりました。そして、昨年の実施計画では、教育相談室による新たな施策の推進に関する提案を承認し、令和5年度当初予算案に計上しております。現在は市議会の3月定例会にて、審議中ではございますが、可決されましたら速やかに事業を推進させていただきたいと考えております。

本日は、教育相談室長の関崎より、複合的な問題を抱える家庭や子どもをしっかりと支援していくために、教育委員会と市長部局が連携した支援策の方向性をお示しいたします。なお、子どもへの支援だけではなく、家庭への支援を含めて説明させていただくことから、市長部局の子ども未来部子ども未来応援センター所長、健康福祉部福祉政策課長を本会議へ招集しております。

本市といたしましては、しっかりと子どもたちを守り、そして家庭を支援していきたいと考えておりますので、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

そして、結びではございますが、市制施行50周年記念事業であるクラフトビアフェスタが明日開催されます。ぜひ教育委員の皆様方にも、お越しいただき、ビールやお料理に舌鼓を打っていただきまして幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

### 【齊藤政策企画課長】

星野市長ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、星野市長にお願いさせていただきます。

星野市長、よろしくお願いいたします。

### 【星野市長】

それでは会議に移らせていただきます。議事に入る前に、本日の会議録署名委員を指名いたします。会議録署名委員には、深井委員と横田委員をご指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

本日の議事は、「学校教育相談の充実について」でございます。

冒頭のあいさつの中でも触れさせていただきましたが、教育相談の充実について、学校や関係機関と連携した支援につきまして、ご説明をさせていただきます。

それでは、教育相談室、関崎室長、よろしくお願いいたします。

**【関崎教育相談室長】**

(学校教育相談の充実について説明)

**【星野市長】**

ありがとうございました。近年の不登校児童生徒数の推移や本市の取組における状況、経過などを踏まえて報告をいただきました。そして最後は、これから取り組むべき大きな課題である家庭への支援について報告をいただきましたが、教育委員会と市長部局の連携を強化し、教育相談の充実に向けて市役所全体で取り組んでいきたいということでございます。

先生方にご意見を頂戴する前に、本日出席している福祉政策課長、子ども未来応援センター所長からコメントをいただきたいと思います。

それでは先に福祉政策課、須藤課長、よろしくお願いします。

**【須藤福祉政策課長】**

福祉政策課では、アスポート事業とジュニア・アスポート事業を担当しております。その中で、OBの方も含めて学校の先生方と一緒に仕事をさせていただく機会が多くありますが、学校の先生方の教育にかける熱意は大変素晴らしいと日々感じております。事業に携わる中で、家庭には、子どものことだけではなく、両親の疾病、障がい、生活の困窮など、様々な課題を解決する必要がありますが、支援する立場である私たち職員が疲弊していると、支援はうまくはいかないと思っています。

学校の先生や福祉の相談員が孤立をせずに、一緒に連携して支えていくため、新年度から重層的支援事業を進めていきたいと考えています。ぜひ、関係機関のお力を借りながら一緒に進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

**【星野市長】**

ありがとうございます。次に、子ども未来応援センター、益子所長、よろしくお願いします。

**【益子子ども未来応援センター所長】**

子ども未来応援センターでは、特に虐待の関係につきまして、学校と密に連携をさせていただいております。また、学校だけではなく、児童相談所や警察など地域の様々な関係機関との連携がございます。先ほど関崎室長の説明の中で父子家庭の事例がございましたが、細かく情報共有しながら、学校ができること、子ども未来応援センターができることを整理しながら、進めております。今後においても、それぞれの方に必要な支援ができるように、学校や教育相談室、市長部局の福祉政策課なども含めた関係機関との連携を強化してまいりたいと考えております。

**【星野市長】**

ありがとうございます。

それでは、教育委員の先生方からご質問やご意見をいただきたいと思います。

**【横田委員】**

コロナの影響などもあり、すべての子どもたちに目が行き届けられないことへの不安を持っている先生方に対して、子ども未来応援センターや健康福祉部の方々が連携して進めていくのは非常に良いと思います。一方で、私は過去に学校で子どもたちを見ていた経験から、学校で教員が子どもたちと接する時に、子どもたちのシグナルをいかに早くキャッチできるかということが、非常に重要であるとも思っています。

また、前回の会議時には、アセスはすべての学校での実施はされていなかったと認識しておりますが、現在は浸透しているのでしょうか。西中学校のモデルを見ると非常に良い数値が出ていますが、これは西中学校だけでの取り組みなのでしょうか。

また、小中連携についても非常に大切だと思いますので、勝瀬中学校区の連携について教えてください。

**【関崎教育相談室長】**

実施校につきましては、ふじみ野小学校や鶴瀬小学校などが新たに取り組む予定となっているなど、実施校も徐々に広がりつつあります。各校において、子どもの状況を把握するツールとして活用していただいております。

教育相談室としては、子どもの状況を把握するだけでなく、把握した情報を基に、指導法の工夫改善や子どもに合った支援につなげたいと考えているため、西中学校のような取り組みを広げていきたいと考えています。

また、勝瀬中学校区のアセスの活用については、小中連携による9年間を見通した、子どもたちの成長支援として取り組まれております。小中連携の手法としては、小学校6年生が中学校に進学する際の引継ぎ資料として、アセスのデータを受け渡していると伺っております。アセスの結果の読み取りについて、教育相談室にも相談をいただいております。連携をしながら小学校から中学校への引継ぎについて、具体的な支援を取っていききたいと考えております。

**【横田委員】**

教育相談室では、アセスを全校で取り入れたいという考えなのでしょうか。各校がアセスに類似したアンケートを実施するなど、個々の学校で差があると、小中連携を図るのは難しいのではないかと感じます。教育相談室として、アセスを推奨するのであれば、全校での実施が見込めるのでしょうか。

**【関崎教育相談室長】**

アセスの他にも学校独自のアンケートや、類似した調査はありますが、アセスには家庭の状況なども把握できるという特徴があるため、教育相談室としてはアセスを推奨しているところです。

その一方で、既に学校で取り組んでいるアンケートなどを否定するものではなく、学校での取組を尊重しながら、アセスの有用性の啓発にも取り組んでいます。

**【星野市長】**

アセスの集計は、業者または学校のどちらで行っているのでしょうか。

**【関崎教育相談室長】**

アセスは各校の先生が集計しています。アセスには、アンケートを実際の子どものたちのイメージと比べながら、先生が入力するという特徴があります。その結果、問題ないと思っていた子どもが、実際には苦戦していたことを集計しながら気づくという点も、アセスの特徴の一つです。

**【深野委員】**

関係機関の連携による相談事例を挙げていただきましたが、相談件数はどれぐらいあるのでしょうか。

**【関崎教育相談室長】**

相談件数はかなり多くあります。一例として、子ども未来応援センターの相談員には、60件程度の相談に対応している方もいると伺っております。

**【深野委員】**

家庭の状況を把握するのは大変だと思いますが、現状を踏まえると家庭へ支援をしていく必要があると感じています。

また、学校と家庭以外でも、子どもたちにとって居心地が良いと思える場所があると良いと思います。昨年受けた研修で、奈良県生駒市では教育支援施設内に「いきいきほっとルーム」という、テーブルやヨギボーを設置した、子どもたちがくつろげる居場所を整備した事例があることを学び、居場所づくりにも様々な方法が考えられると思いました。

**【星野市長】**

子どもの居場所づくりに関して、子ども未来応援センター所長から、子ども食堂などの団体について紹介をお願いします。

**【益子子ども未来応援センター所長】**

子ども未来応援センターでは、子ども食堂や学習支援などの居場所づくりをされている団体へ支援をしています。主に立ち上げ時の支援をしており、運営後も必要があれば支援をしている状況です。

近年はコロナの影響により、会食を行う子ども食堂では、思うように実施ができずにおりましたが、コロナが少しずつ落ち着いてきておりますので、今後は集まって、食事を提供できるように準備をされている団体もあると伺っております。

子ども未来応援センターとしては、居場所づくりに取り組む団体を増やしていきたいと考えています。

**【深井委員】**

ヤングケアラーがいる家庭を発見することは、すごく難しいのではないかと考えていますが、アセスではヤングケアラーも発見できるという認識でよろしかったでしょうか。

**【関崎教育相談室長】**

アセスでは、ヤングケアラーの特定はできませんが、子どもの不調を把握することができます。事例としては、アセスの数値が低い子どもに対して、先生から声掛けを試みたり、周りの子どもたちや他の先生から情報集めたりすることにより、家庭の中で下の子の世話をしているという情報にたどり着き、支援につながったということがありました。

**【深井委員】**

具体的な支援の内容を教えてくださいませんか。

**【関崎教育相談室長】**

まず、学校の先生は、直接子どもと関わるといふ強みがありますので、毎日様子を観察しています。朝の健康観察や服装、学習態度、成績など、様々な要素から子どもの様子を把握し、その情報を基に声掛けや学習支援を進めるなど、その子どもに合った支援をしています。

教育相談室は、先生からの情報や保護者からの相談を基に、保護者ができることについて、一緒に考えています。さらに、子ども未来応援センターを紹介し、受けられる支援を提案するなど、家庭の状況に適した支援を行っています。

**【星野市長】**

福祉政策課が所管しているアスポート事業に携わっていただいているNPOの先生から以前伺った話ですが、スーパーに買い物に行った時に、アスポートに来ている子どもが一人でレジ袋いっぱい物を買ってスーパーを出て行く姿を見たため、後日、

教室にその子どもが来た時に話をすることで、実情が分かったというエピソードを伺いました。福祉政策課長がアスポート事業において感じることをお聞かせください。

#### 【須藤福祉政策課長】

アスポート事業は、勉強する機会を作れない生活困窮世帯の子どもたちに、勉強する機会を提供することを主眼として実施しています。また、子どもたちが教室などに来る中で、いつも同じ服装だったり、歯磨きをしていなかったりする様子が見受けられる子どもに対して、団体のスタッフが家庭訪問等を行っています。

また、当課では、生活困窮対策としてフードバンク事業を行っている、社会福祉協議会とのつながりもあるので、食材を家庭に届けたり、お互いに得た情報を共有したりすることにより、今よりも面的な支援ができるのではないかと考えています。

#### 【宮委員】

本題に入る前に、最初に通う学校はどこだと思いますか。当初の学校教育法には、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学、その他幼稚園と定められていました。しかし、幼児教育の重要性や教育の順序性の観点から、幼稚園を一番初めに規定する法改正が10数年前に行われました。そのため、私たち幼稚園の先生は、子どもを入園式で迎えた時に、「幼稚園は初めて通う学校だよ。」と紹介しています。

しかしながら、県や国などから通知には、児童生徒と記載されており、幼稚園の幼児の記載が抜けていると感じることがあります。

また、本日は幼稚園の卒園式があり、保護者の方が20人くらい挨拶に来てくれましたが、その中で半分程度の方は、子どもが幼稚園に入園する時に、自分の子どもがまだ言葉を喋れない、座ってられないなどの理由から、幼稚園でやっていけるか心配という相談をいただきます。

不登校やいじめを無くしていくためには、アセスなども必要だと思いますが、保護者が相談する場所が必要であると感じており、幼児の保護者が相談できる環境の整備も重要であると感じています。

#### 【星野市長】

ありがとうございます。小学校入学前の子どもに対する相談体制について、子ども未来応援センター所長から説明をお願いします。

#### 【益子子ども未来応援センター所長】

子ども未来応援センターは、妊娠出産に関することや、子どもの貧困対策、子どもに関する相談など、子どもの総合相談窓口として、平成29年10月に設置されました。また、令和3年4月からは、母子保健事業や、児童虐待業務、子育て支援センター業務が移管され、業務の拡充が図られました。現在は、子どもに関する相談については、原則子ども未来応援センターでお伺いする体制を取っておりますので、相談を希望す

る保護者の方がいらっしゃいましたら、子ども未来応援センターにご連絡をいただくよう、お声掛けいただければと思います。

#### 【星野市長】

西中学校のアセスの結果にある、7項目の中で、教師サポートと友人サポートの数字が伸びていることから、学校の先生方の努力によるものであると思いますが、その内容について、山口教育長からご説明をお願いします。その後、本日の会議全体へのコメントをお願いします。

#### 【山口教育長】

アセスは平均値が 50 になる調査のため、西中学校では取り組みを始める前から教職員の指導のレベルは高かったと思います。西中学校は経験の浅い若手教員が多い学校ではありますが、教育相談の視点を持った教職員研修の実施や、アセスに基づいた子どもへのアプローチ手法について教育相談室の力を借りながら教職員が取り組んだ成果であると思います。

このことから、教育委員会としては、早い段階でアセスを共通の指標として、アセスに基づいたアプローチができるようにしていくことが必要だと思っています。一方で、アセスは教職員の分析集計が必要であるなど、教職員の負担も少なからずあることから、一斉に導入することは難しいと考えております。アセスの方が効果的であることを学校が理解し、多少負担であってもアセスに取り組む効果を理解していただけるよう、教育相談室を中心に努力をしていきます。

また、本日の会議に市長部局の子ども未来応援センター所長と福祉政策課長に同席していただき、情報交換や今後の取組方針の共通理解を図れたことは大変ありがたいと思います。来年度から進めていく重層的支援事業にも大きく期待をしており、これまでの取組がさらに手厚くなり、より多くの機関との連携など、大きな可能性があるので、期待いたします。

本日は、つながりが弱くなっている所に様々な課題が生じてくることがはっきりしたと考えております。つながりの反対は孤立であり、孤立していることに何かしら問題が生じてきます。

その問題を分析し、家庭を支援するうえで、市長部局と教育委員会が一体となって取り組むことは大変重要だと改めて思いましたので、教育委員会としてもしっかり努めてまいりたいと思います。

#### 【星野市長】

ありがとうございました。関崎室長から補足などはありますか。



### 【関崎教育相談室長】

教育相談室では、子どもたちが自分で困難を乗り越える力を育てるため取り組んでおります。さらに、関係機関との連携についても説明しましたとおり、学校だけではなく家庭への支援につなげていきたいと考えております。

### 【星野市長】

最後に私から一つエピソードを紹介させていただきます。私が県議会議員の時に、不登校の子どもたちを受け入れている長野県の信濃むつみ高校を視察させていただきました。山口教育長の大学時代のご同僚の方が教頭先生をされていましたが、その先生の取組が大変素晴らしいと感じたため紹介します。

まず、不登校などの課題を抱えている子どもの数と同じだけ、お母さんや家庭があります。先生は、以前からお母さん方への支援を続けており、現在は松本市内で子どもと一緒にお母さん方も集まれる居場所を作り、似た悩みを持つお母さん方が集まり、相談や情報共有ができるサロンとして活用されています。

先生からの話を聞き、私は市長として、子ども未来部や教育相談室を通じてお母さん方を含めた家庭への支援ができないかと考えております。私からは以上です。

本日も忌憚のないご意見、ご質問などを頂戴いたしました。4月からは跡見学園女子大学との連携などにより、教育相談事業をさらに拡大をしていきます。そして、重層的支援も進めることで、市長部局と教育委員会の連携を強化しながら取り組んでまいりたいと思います。

また、学校教育相談の充実については、継続した課題であることから、一定の期間を経た後に、教育相談室長から経過報告をさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

ここで少しお時間を頂戴したいと思います。

昨年の12月から新たに教育委員として宮陽一先生に委員にご就任いただきました。本日、総合教育会議に初めてご出席いただきましたことから、宮先生から一言ご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

### 【宮委員】

ただいま、星野市長よりご紹介いただきましたとおり、昨年の12月21日に教育委員に任命されました宮陽一と申します。よろしくお願いいたします。

私は、中学校で理科の教員をしている頃に富士見市民となり、その後、教頭、校長を経て、60歳で定年した後、現在は幼稚園の園長を務めております。また、これまでに市の教育行政にも関わらせていただきました。

これまでの職歴の中で、幼稚園の幼児、小学校の児童、中学校の生徒、それぞれの子どもたちを見ることができたことが、自信につながっていると感じています。

また、子どもが成長するためには、それぞれの年齢に応じた教育や保育を行う必要があると思っております。

もう一つお話をさせていただきます。私は中学校の卒業生に、「夢を持たなければ、心は豊かにならない。」と、伝えてきました。現在、WBCが行われていますが、WBCを見て、子どもたちが野球選手になりたいと言うのも一つの夢です。夢を持つためには目標が必要であり、その目標を実現するために、子どもたちは頑張る、そうすると子どもたちは自然と成長をしていきます。「挑戦をしないと絶対に成功はしないんだよ。」ということも、子どもたちに伝えてきました。

また、幼稚園の子どもたちは夢をいっぱい語ります。しかし、小学校に入学し、1年生、2年生と成長していくと、夢を語ることが徐々に恥ずかしくなり、中学生になると、夢を語ることがさらに少なくなります。子どもたちが持っている夢を表に出さない、表現ができないことは、大きな課題であると認識しながら、これからの教育に携わっていきたいと思います。

最後に、富士見市の教育を少しでも良くしていくことができればと思っておりますので、よろしく願いいたします。

#### 【星野市長】

ありがとうございます。今後の教育行政の推進に、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

それでは本日予定しております議事は終了いたしましたので事務局に戻します。

#### 【齊藤政策企画課長】

事務局から1点ご報告がございます。本日の議事録署名委員に指名されております、深井委員、横田委員におかれましては、議事録ができ次第、ご署名をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和4年度第3回総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。